



筒井康隆はこう読めの
逆襲
平岡正明
CBS・ソニー出版
(12/21刊・¥980)

以前に出た『筒井康隆はこう読め』の続篇。
作品論としては、『美藝公』以降の作品を中
心に、映画から演劇からなど、筒井論を
全篇にわたって展開している。相変わらず面
白い。

まず、短篇「ベスト」から説き起こす（吉
本隆明との論争）ピョーキものとの関連。次
に、演劇に触れ、筒井の演劇は宝塚である！
とききて、夢の話が続く。Ⅱ節になって、突然
『時をかける少女』の映画評。原田知世→
美藝公→リリシズム→大林宣彦→俗物
凶鑑という連想があり（これは、V節の、筒
井版水滸伝『俗物——』と、著者自身も出演
した映画との話に連なる）、かと思うと、筒
井の言語感覚（生まれた時から死んでいる、
核のない現代語を抽出してみせた感覚）
を分析する、といった調子。

そして、巻末にある『「虚人たち」を解剖
する』『「美藝公」論』が、本書の圧巻であ
る。著者のいう第三期筒井康隆を代表する
「美意識」にはじまり、時代、情況、ラテン
アメリカ云々が渾然一体となって、筒井の作
品像を浮かび上がらせている。何とも不思議
な快感だ。